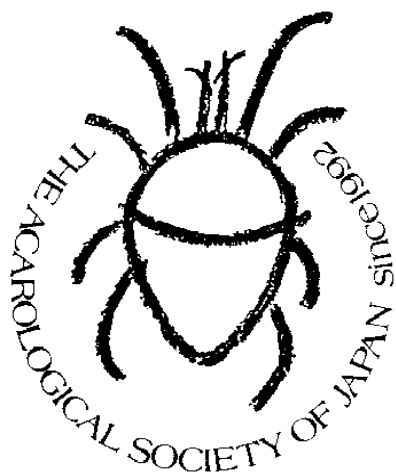

第 20 回
日本ダニ学会高知大会
プログラム



会 期：2011年9月28日（水）～30日（金）

会 場：城西館

事務局：〒783-8502 高知県南国市物部乙 200

高知大学農学部昆虫生態学研究室

TEL 088-864-5136 FAX 088-864-5136

後 援：（財）高知県観光コンベンション協会

高知大学教育研究部総合科学系生命環境医学部門

目 次

大会要領	1
大会の案内	2
特別講演要旨	3
一般講演 (9/29)	5
特別講演 (9/29)	6
一般講演 (9/30)	7
会場案内図	9
大会参加者名簿	10

第 20 回日本ダニ学会大会高知大会運営組織

大 会 長： 荒川 良（高知大学）

事 務 局： 伊藤 桂（高知大学）
古味 一洋（高知県）

運営委員： 福田 達哉（高知大学）
中石 一英（高知県農業技術センター）

第 20 回 日本ダニ学会大会高知大会要領

会 期：2011 年 9 月 28 日（水）～ 30 日（金）

会 場：城西館

〒780-0901 高知県高知市上町 2-5-34

日 程： 9 月 28 日（水）

13:30 ～ 14:50	ホームページ委員会
15:00 ～ 16:20	編集委員会
16:30 ～ 18:00	評議員会
18:10 ～ 20:00	ICA 準備委員会

9 月 29 日（木）

8:30 ～	受付
8:55 ～ 9:00	開会あいさつ
9:00 ～ 12:25	一般講演（講演番号 1 ～ 13）
12:25 ～ 13:30	昼食休憩
13:30 ～ 14:40	総会
14:40 ～ 14:50	写真撮影
15:00 ～ 15:50	特別講演

「トマトツメナシコハリダニによるトマトサビダニ
の生物的防除にむけて」

演者： ○河合章・北村登史雄（野菜茶業研究所）

16:00 ～ 18:15	一般講演（講演番号 13 ～ 22）
18:30 ～ 20:30	懇親会

9 月 30 日（金）

9:00 ～ 12:55	一般講演（講演番号 23 ～ 36）
12:55 ～ 13:00	閉会あいさつ

大会の案内

受付

- 9月29日（木）8:30から会場前にて行います。受付にて大会参加費 4000円（学生 2000円）、懇親会費：6000円（学生 3000円）、弁当代（希望者のみ、700円、29日（木）分）をお支払いください。
- 弁当を申し込まれた方は、弁当券をお受け取りください。
- 受付にてお渡しした名札は、会場内では常時お付け下さい。

一般講演

- 講演ファイルを保存した USB メモリーを早めに担当者にお渡しください。
- 講演時間は1題 15分（発表 12分、質疑 3分）です。演者は次の演題の座長をお願いします。プログラムに余裕がありませんので、時間厳守にご協力願います。
- 講演はすべて液晶プロジェクター（Windows 版 PowerPoint, PDF ビューアー）で行って頂きます。講演での PowerPoint の使用については、演者自身で操作をお願いいたします。また、PCの持ち込みによる接続は致しません。

講演要旨

- 講演要旨は日本ダニ学会誌 20 巻 1 号の巻末および大会 HP を参照の上、下記のいずれかの方法でご提出下さい。可能な限り①または②の方法をお願いします。
 - ① 添付ファイルとして電子メールで編集部まで送付
 - ② FD もしくは CD-R に保存して受付に提出または編集部へ郵送
 - ③ 電子メール本文にテキスト形式で記入して編集部まで送付
 - ④ A4 判紙に楷書で記入して受付に提出または編集部へ郵送

記念写真撮影

- 9月29日（木）の総会終了後、大会会場にて撮影しますので、遅れずにご参集下さい。写真は、懇親会場または、翌9月30日（金）に受付にてお受け取り下さい。受取の際、名簿にチェックを入れて下さい。

昼食、休憩及び展示ブース

- 会場入口に賛助会員の展示ブースを開設しますので、お立ち寄り下さい。

懇親会

- 9月29日（水）18:30より同会場にて行います。

その他

- 駐車場はありますが、手狭になっておりますので、車でのご来場はできるだけご遠慮願います。

特別講演要旨

野菜茶業研究所上席研究員
河合章
野菜茶業研究所主任研究員
北村登史雄

トマトツメナシコハリダニによるトマトサビダニの生物的防除に向けて

トマトサビダニ *Aculops lycopersici* (Masse) (以後、サビダニ) は、わが国では 1986 年に沖縄県で初めて発生が認められ、1990 年頃から殺虫剤の使用の少ない施設を中心に各地のトマトで重要害虫となっている。従来は他種害虫を対象に散布された殺虫剤により密度が抑制されていたものが、殺虫剤の使用量の減少と広いスペクトラムの殺虫剤の使用の抑制により、発生が増加したものと考えられる。

サビダニの増殖試験を行っていたガラス室において、サビダニの密度が急速に低下する株が見られ、その株では捕食性のダニが増殖しており、松山東雲短期大学の芝博士によりコハリダニ科の *Homeopronematus anconcai* (Baker) と同定された。本種はサビダニの捕食者として北米で報告があるが、我が国では初発見であり、和名をトマトツメナシコハリダニ (以後、コハリダニ) とした。本種の捕食量はきわめて多く、体長の大きい齢ほど多く、雌成虫は日当たり数十頭の第二若虫を捕食し、成虫を含めサビダニの全ての態を捕食した。密度抑制効果を確認するためサビダニの増殖したトマトにコハリダニを放飼した。コハリダニを放飼しない区では接種 7 週間後にサビダニの成虫が株あたり約 12 万頭に達し、多くの葉が枯死したのに対しコハリダニを放飼した区では、接種 2～3 週間後からサビダニの成虫数が急激に減少した。サビダニ成虫の最大寄生数は株あたり 1～2 万頭であり、褐変・枯死する葉は極めて少なく、コハリダニがサビダニの密度を実質的な被害が出ない程度に抑制

したものと考えられた。また、1カ所から放飼したコハリダニは、株全体に速やかに分散した。これらの結果から、コハリダニはサビダニの生物的防除手段として有効と考えられた。

そこで、本種の生物的防除素材としての実用化をめざして、アリストライフサイエンス(株)を中心に、野菜茶業研究所、大阪府環境農林水産研究所、松山東雲短期大学が加わり、プロジェクト研究を実施した。コハリダニは花粉、酵母、スジコナマダラメイガの卵も摂食するが、発育・産卵はフシダニ類を餌としたときのみ見られ、サビダニを餌、トマトを産卵・吸水基質とし、週 50,000~100,000 頭の飼育が可能な技術を確認した。コハリダニの発育は 30℃まで高温ほど早く、成虫までの発育率は 25℃以上の高温で高く、捕食量は高温ほど高かった。また、日当たり産卵数は高温ほど多く、総産卵数は 25℃で最大であり、成虫寿命は高温ほど短かった。これらのことから、飼育には 25~28℃が最適と考えられた。また、トマトの葉からのコハリダニの回収技術、おがくずを保持剤とした製剤化技術を開発した。さらに、他種病虫害防除に用いる薬剤のコハリダニに及ぼす影響を解明し、併用可能な薬剤を示した。しかしながら、コハリダニの生物的防除素材としての実用化には至らなかった。

今後、サビダニの初期発生の確認が困難なことから、定植直後からの定期放飼等の有効な放飼法の開発、その場合の放飼密度・場所等、コハリダニの放飼条件の確立、コハリダニの株間移動がきわめて少ないことから株間移動の可能な誘引線の設置等、コハリダニの働きやすい環境の確立、より安価な更なる大量増殖システムの開発が必要である。これらの技術が開発され、トマトツメナシコハリダニがトマト害虫の総合的管理法に組み込まれることが望まれる。

9月29日(木)

8:55~9:00 開会あいさつ

- 9:00 1. 岐阜県のハウレンソウ栽培ハウスで発生するトゲダニ類とそれらのハウス内分布
○川島 充博(京大院・農・生態情報)・浅野 雄二(岐阜中山間農研)・高久 元(北教大札幌・生物)・天野 洋(京大院・農・生態情報)
- 9:15 2. 徳島県のトンネルニンジンで発生したホモノハダニの薬剤感受性
○兼田 武典¹・亀代 美香¹・南 利夫²(¹徳島農総セ,²鳴農支セ)
- 9:30 3. 沖縄において農作物上にハダニとともに発生するカブリダニ類の地理的分布
○大野 豪¹・後藤 哲雄²・宮城 聡子¹・喜久村 智子¹・来間 美紀¹・貴島 圭介¹・大石 毅¹(¹沖縄農研セ,²茨城大・農)
- 9:45 4. 静岡県の茶園におけるカブリダニ類の種構成Ⅲ-チリカブリダニの分布拡大と種構成の変化-
○小澤 朗人・内山 徹(静岡茶研セ)・豊島 真吾(野茶研金谷)
- 10:00 5. ブドウとカキに設置したファイトトラップによるカブリダニの捕獲消長
望月 雅俊(果樹研)
- 10:15 6. ハウレンソウ栽培ハウスから採取された日本未記載種カブリダニ(新和名:ハウレンソウカブリダニ)の記録
○天野 洋・川島 充博(京大院・農)・松村 美小夜(奈良県)・齊藤 美樹(道総研上川農試)・豊島 真吾(農研機構野茶研)
-休憩-
- 10:40 7. ハサミムシ由来のヒゲダニについて
田神 一美(筑波大)
- 10:55 8. ユキヤナギおよびニホンナシに発生したフシダニ2種について
○上遠野 富士夫(法政大・生命科学)・三田村 敏正(福島県農総セ)・鈴木 誠(神奈川農技セ)・大井田 寛(千葉農総研セ)
- 11:10 9. クスノキのダニ室から何がわかったのか
笠井 敦(京府大院・応用昆虫)
- 11:25 10. 葉面の上下における重力方向と微細立体構造の違いがチャノヒメハダニとケブトカブリダニの種間相互作用を緩和する
○須藤 正彬・刑部 正博(京大院・農・生態情報)
- 11:40 11. 輸入植物検疫で発見されるハダニ科 *Tetranychus* 属のPCR-RFLP法による識別
○有本 誠¹・佐藤 雅¹・上杉 龍士^{2*}・刑部 正博²(¹横浜植防,²京大院・農・生態情報,*現・野菜茶業研)

- 11:55 12. 小ギク圃場周辺におけるケナガカブリダニ個体群構造の時空間的解析
 ○日本 典秀 (生物研)・國本 佳範 (奈良農総セ)・小山 裕三 (奈良県北部
 農林振興事務所)
- 12:10 13. 核4遺伝子座を用いたヒメヘソイレコダニ *Acrotritia ardua* (ササラダニ類)
 の種内変異の解析
 ○島野 智之 (宮教大・EEC)・佐藤 拓也 (筑波大)・福田 康弘 (東北大院・
 農・先端農学)・小林 憲生 (埼玉県立大)・渡辺 信 (琉大・熱研・西表)
- 12:25~13:30 昼 食 休 憩
 13:30~14:40 総 会
 14:40~14:50 写 真 撮 影
 15:00~15:50 特別公開講演

「トマトツメナシコハリダニによるトマトサビダニの生物的防除にむけて」

○河合 章 上席研究員・北村 登史雄 主任研究員 (野菜茶業研究所)

- 16:00 14. モクセイハダニとミカンハダニの生殖干渉の非対称性
 ○生出 裕美子・刑部 正博 (京大院・農・生態情報)
- 16:15 15. ハダニをめぐるカブリダニとアリの取り合い共生
 ○大槻 初音 (京大・農・生態情報)・矢野 修一 (京大院・農・生態情報)
- 16:30 16. イモムシに喰われるハダニ
 ○城塚 可奈子 (京大・農・生態情報)・矢野 修一 (京大院・農・生態情報)
- 16:45 17. ミカンハダニは何故アゲハチョウ幼虫にむざむざ喰われるのか
 ○矢野 修一 (京大院・農・生態情報)・城塚 可奈子 (京大・農・生態情報)
- 17:00 18. ケナガスゴモリハダニ *Stigmaeopsis longus* の糸の機能 ~捕食者に対するカ
 ウンターアタック~
 ○金澤 美季・齋藤 裕 (北大・応動)
- 17:15 19. ケナガスゴモリハダニの越冬生態 ~ 繁殖停止と体色の関係についての考察
 ○伊藤 桂 (高知大・農)
- 17:30 20. カンザワハダニ成虫の交尾前ガード行動について
 ○奥 圭子 (中央農研)
- 17:45 21. 北日本におけるスジクワガタナカセの寄主拡大
 ○岡部 貴美子・升屋 勇人・神崎 菜摘・滝久 智 (森林総研)
- 18:00 22. ヒラタクワガタと寄生ダニ・クワガタナカセの進化的重要単位再考
 ○五箇 公一 (国立環境研)・岡部 貴美子 (森林総研)・所 諭史 (茨城大)・
 岡本 卓 (国立環境研)・立田 晴記 (琉球大)
- 18:30~20:30 懇 親 会

9月30日(金)

- 9:00 23. ナミハダニに対する UVB の影響：効果を決めるのは照射強度か積算照射量か？
○村田 康允(京大・農・生態情報)・刑部 正博(京大院・農・生態情報)
- 9:15 24. ナミハダニのシエノピラフェンおよびピリダベン抵抗性機構と交差関係
○杉本 直也・刑部 正博(京大院・農・生態情報)
- 9:30 25. ナミハダニ GABA 受容体の構造機能相関
○小林 武・平垣 進・Tufail Muhammad・竹田 真木生(神戸大院・農)・松田 一彦(近畿大院・農)
- 9:45 26. 紫外線とプラントアクティベータを用いた植物の誘導防衛発現
前田 太郎(農業生物資源研究所)
- 10:00 27. 省スペース型光照射システムの開発：ナミハダニの UV-B 感受性試験への利用
○鈴木 文詞(千葉大・学振)・Olga Tsarsitalidou(テッサロニキ・アリストテレス大)・大山 克己(千葉大・環境健康フィールド科学セ)・Dimitris S. Koveos(テッサロニキ・アリストテレス大)
- 10:15 28. Long-term storage strategy for the predatory mite, *Neoseiulus californicus*, under conditions of low air temperature and high relative humidity with reference to post-storage biological traits
○Noureldin A. Ghazy(千葉大院・園芸)・鈴木 文詞(千葉大・学振)・Maqsood Shah(NWFP 農業大・昆虫)・天野 洋(京大院・農・生態情報)・大山 克己(千葉大・環境健康フィールド科学セ)
- 休憩-
- 10:40 29. 休眠時および非休眠時におけるナミハダニのカロテノイド組成
○川口 尚子・刑部 正博(京大院・農・生態情報)
- 10:55 30. ミカンハダニの紫外線耐性
○刑部 正博(京大院・農・生態情報)
- 11:10 31. 低温がカンザワハダニ休眠雌の休眠覚醒と覚醒後の産卵行動におよぼす影響
○上室 剛(鹿児島農総セ)・日本 典秀(農研機構・中央農研)
- 11:25 32. ハダニの休眠は捕食回避の役にたつ ～今一度ハダニ休眠生態学を洗濯致し候～
○關戸 智恵・矢野 修一(京大院・農・生態情報)
- 11:40 33. 東京都内の29小中学校の環境アレルゲンとしてのダニ数及びダニアレルゲン調査
○元木 貢¹・佐々木 健¹・楠木 浩文²・高岡 正敏²・橋本 知幸³(¹アベックス産業株式会社, ²株式会社ペスト マネジメント ラボ, ³財団法人日本環

境衛生センター環境生物部)

- 11:55 34. マダニ抗菌ペプチドの転写制御
○坪川 理美(筑波大・生命環境), 中島 由郎(産総研), 荻原 麻理(東大・新
領域創成), 田中 博光(生物研), DeMar Taylor(筑波大・生命環境)
- 12:10 35. 新型走査電顕像によるチマダニ属幼虫の有用分類の試行
○矢野 泰弘¹, 藤田 博己², 高田 伸弘¹ (¹福井大学医学部, ²大原研究所)
- 12:25 36. ヒラタオニダニ *Platynothrus peltifer* 油腺分泌物の組成
桑原保正 (大阪府)
- 12:40~12:45 閉会あいさつ

会場案内図



高知空港から約 20km (バスで約 40～50 分)



はりまや橋(市街中心部)から約2km. 路面電車・タクシーで約10分.

大会参加者名簿 (2011. 8. 13 申し込み分まで)

	参加者氏名	所属	講演番号
A	天野 洋	京大院・農・生態情報	1, 6, 28
	青木 淳一	東京都	
	有本 誠	横浜植物防疫所	11
B	Baloch, Muhammad Naveed	京大院・農・生態情報	
G	Ghazy, Nouredin A.	千葉大院・園芸	28
	五箇 公一	国立環境研究所	22
	後藤 哲雄	茨城大・農	3
H	日本 典秀	中央農研	12, 31
I	石川 和男	愛媛自然環境研究所	
	伊藤 桂	高知大・農	19
K	上遠野 富士夫	法政大・生命科学	8
	上室 剛	鹿児島県農業開発総合セ	31
	金澤 美季	北大院・農・応用動物	18
	兼田 武典	徳島県農業研究所	2
	笠井 敦	京府大院・応用昆虫	9
	川口 尚子	京大院・農・生態情報	29
	河合 章	農研機構・野茶研	特別講演
	川島 充博	京大院・農・生態情報	1, 6
	岸本 英成	農研機構・果樹研	
	小林 武	神戸大院・農・昆虫機能	25
	栗城 源一	奥羽大・生物	
	桑原 保正	大阪府	36
M	前田 太郎	農生資研	26
	松尾 智英	鹿児島大・農・獣医	
	望月 雅俊	農研機構・果樹研	5
	森 克彦	日植防・高知	
	元木 貢	アペックス産業株式会社	33
	村田 康允	京大・農・生態情報	23
N	中田 恵久	サンケイ化学	

	参加者氏名	所属	講演番号	
O	生出 裕美子	京大院・農・生態情報	14	
	岡部 貴美子	森林総研	21, 22	
	奥 圭子	中央農研	20	
	大久保 憲秀	ササラハウス		
	大野 豪	沖縄農研セ	3	
	刑部 正博	京大院・農・生態情報	10, 11, 14, 23, 24, 29, 30	
	大槻 初音	京大・農・生態情報	15	
	小澤 朗人	静岡茶研セ	4	
	S	關戸 智恵	京大院・農・生態情報	32
		島野 智之	宮教大・EEC	13
城塚 可奈子		京大・農・生態情報	16, 17	
須藤 正彬		京大院・農・生態情報	10	
杉本 直也		京大院・農・生態情報	24	
鈴木 丈詞		千葉大・学振	27, 28	
T		田神 一美	筑波大院	7
	高久 元	北教大札幌	1	
	Taylor, DeMar	筑波大院・生命環境科学	34	
	坪川 理美	筑波大院・生命環境科学	34	
Y	矢野 修一	京大院・農・生態情報	15, 16, 17, 32	
	矢野 泰弘	福井大・医	35	

太字は演者